

令和7年6月10日

三河歯科衛生専門学校
校長 丸山 健 殿

三河歯科衛生専門学校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会
委員長 新實 良美



令和6年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 開催日時：令和7年5月25日（日） 10：00～11：00

2. 場 所：三河歯科衛生専門学校

3. 参 加 者：8名

学校関係者評価委員

楠本 裕枝	教育関係者	豊橋歯科衛生士専門学校 専任教員
安面 紀代子	卒業生	本山歯科医院名古屋本院 歯科衛生士
青山 恵美	保護者	
清水 友恵	保護者	
葛原 奈美	保護者	
鳥越 奈美	保護者	

学校教員

丸山 健	校長	（挨拶のみ）
藤井 広美	教務主任	（趣旨説明・記録）
長谷川 真未	1年生担任	（進行・アドバイザー）

4. 実施方法：自己点検評価報告書を基に、基準項目ごとに説明と取り組みを聞き評価を行った。（評価委員へは、自己点検評価報告書を事前に送付済）



5. 意見・改善点

1) 教育目標

- ・適切である。
- ・入学時ガイダンス・保護者会などで、教育目標を理解してもらうための努力を継続していく必要がある。

2) 学校運営

- ・適切である。
- ・中長期計画会議・職員会議・学年会議が定期的に開催され、目標が明確に定められている。

3) 教育活動

- ・適切である。
- ・超高齢社会における歯科衛生士の役割として、全人的に患者を理解し、良質な医療サービスが提供できる人材の育成が必須である。口腔ケアの実践が可能な実習先との連携をさらに深めていく必要がある。

4) 学修成果

- ・ほぼ適切である。
- ・5年連続国家試験合格率100%であり、就職に関しても就職を希望した学生については例年100%を維持しており、今後も同様に維持を目指す。
- ・令和6年度退学率は4.0%であった。現2年生は入学時24名（全入）であり、学力面・精神面など問題を抱えた学生も多く、成績不振、精神面等の理由で前期に2名が休学し、後期に4名の退学（うち1名は休学者）となった。保護者・本人と幾度となく話し合いをしたが、退学となってしまった。これらを踏まえながら、これまで以上に学生一人ひとりに寄り添い卒業・国家試験までしっかり導いていきたい。

5) 学生支援

- ・適切である。
- ・スクールカウンセラーを月2回程度配置している。相談希望者からは自然に色々なことを引き出してくれ、聞いてもらうことで気持ちが楽になった、前向きになれたなど好評である。

6) 教育環境

- ・適切である。
- ・今年から学生の使用頻度が高い場所から順にWi-Fiの整備を進めていく予定である。
- ・実践能力を向上させるため、臨床実習・臨地実習の指導者と更なる連携をとり、指導のスキル、方向性、内容の統一を図る必要がある。そのため、新型コロナウイルスの流行を機に実施を中止していた、臨床実習指導者会議を再開する。

7) 学生の受け入れ募集

- ・本年度は定員の確保ができていたが、入学直前になり辞退者があったため39名の入学となった。今後も少子化の影響や高校生の企業の就職が好調など、学生募集には苦慮することが予想されるため対策が急務である。
- ・オープンキャンパスの内容を見直し、様々な体験内容を取り入れて参加者に本校や歯科衛生士について等、より興味を持ってもらえるよう工夫をしている。
- ・在学生からのアプローチが有効であり、アンケート結果でも学生の評判が良く貢献度が高い。

8) 財務

- ・ほぼ適切である。
- ・安定した入学者の確保および退学者の防止に努め、極力支出を抑えるべき工夫・改善が必要である。

9) 法令等の遵守

- ・適切である。
- ・専修学校設置基準や関係法令に従い、適正に運営している。

10) 社会貢献・地域貢献

- ・ほぼ適切である。
- ・姉妹校である愛知産業大学主催の大学祭で、ファミリー向けイベント「きらきらフェスタ」に参加し、地域の方々と交流、歯科衛生士の職業周知をする良い機会となった。
- ・社会福祉施設との交流会（障がい者歯科イベント）に参加し、学生にとって勉強の良い機会となった。